

様式第 2 号

会 議 録

会 議 の 名 称		令和 7 年度（2025 年度）第 1 回豊中市立図書館協議会		
開 催 日 時		令和 7 年（2025 年）8 月 5 日（火曜）15 時～17 時		
開 催 場 所		岡町図書館集会室	公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可
事 務 局		読書振興課 岡町図書館	傍 聴 者 数	5 人
公開しなかった理由				
出席者	委 員 (敬称略)	田辺 譲 杉本 光子 樋口 弘子 昇 麗子 福井 佑介 山本 晃輔 森 美由紀 中 和久		
	事 務 局	北村教育委員会事務局次長 西口岡町図書館長 青木庄内図書館長 山根千里図書館長 小堀野畑図書館長 山根岡町図書館副館長 中津岡町図書館副館長 長坂読書振興課副主幹 磯上岡町図書館主査		
	そ の 他			
議 題		1 豊中市立図書館における動く図書館・アウトリーチサービスの取り組みについて 2 豊中市立図書館 来館者アンケートについて 3 その他		
審議等の概要 (主な発言要)		別紙のとおり		

委員紹介

（事務局）

今回は新たな任期での第1回目であるため、会議に先立ち、委員長を決める必要がありますが、委員長が決まるまでの間、読書振興課長の西口が委員長の職務を務めます。

（委員長代行（西口読書振興課長））

それでは、委員長が決まるまで委員長の職務を代行します。まずは最初の議案である委員長の選任についてです。事務局から説明をお願いします。

（事務局）

図書館条例第6条第2項で、協議会の委員長は委員が協議して選出することになっております。また、同条第5項で委員長に事故があるときは、あらかじめその指定する委員がその職務を代理することになっております。それに従い、まず委員長の選任をしていただき、次に委員長から職務代理者を指定していただきたいと思います。なお、委員長の任期は委員の任期によると定められており、令和9年6月30日までとなります。

（委員長代行）

それでは委員長の選任について、ご意見を委員の皆様からいただきたいと思います。自薦、他薦いずれでもかまいません。どなたかご発言願えないでしょうか。

（委員）

福井委員を推薦します。

（委員長代行）

他にご意見はございますか。ないようですので、福井委員に委員長をお願いしたいと思います。福井委員長には、この後、ご挨拶と、委員長職務代理者の指名、議事の進行をお願いしたいと思います。福井委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

（委員長）

どうぞよろしくお願いいたします。私は、図書館情報学を専門とする研究者です。図書館の制度や規範などを研究しています。この協議会では、実務に関する意見交換を通して、豊中の図書館をコーディネートできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、図書館条例第6条第5号により、委員長の職務代理者については委員長が指名することになっているので、山本委員をお願いしたいと思います。それでは山本委員、一言お願いします。

（職務代理者）

普段は、人権教育、マイノリティ教育を行っている研究者です。見えにくくなっている人権の課題などをきちんと議論し、図書館の中にも人権の視点を根付かせることは欠かせないことから、こうした視点からお力になれるよう尽力したいと思います。よろしくお願いします。

(委員長)

それではお手元の次第に沿って議事を進めていきたいと思います。図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承をいただきたいと思います。

図書館協議会の運営方法についてですが、豊中市では原則的に会議を公開しており、本日、4 名の方が傍聴に来ておられます。傍聴は 10 人の定員としております。希望者が定員を超えた場合、傍聴していただく方の人数については、そのときの状況を見ながら、私のほうで判断させていただくということによろしいでしょうか。なお、傍聴の方にはアンケートをお願いしております。協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、今後の議論の参考とさせていただきます。

また、前回（令和 6 年度第 3 回）の会議録について、既に皆様のご了承を得て、公開させていただいております。なお、会議録の公開の際には、発言者については個人名を掲載せず委員とのみ表記して公開しています。今期も同様に、会議録の公開の際には、発言者については個人名の掲載はせず、委員と表記し、公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って議論を進めてまいります。まずは次第 1「豊中市立図書館における動く図書館・アウトリーチサービスの取り組みについて」です。まずは事務局からこのテーマを取り上げた背景や理由、現在の取り組み内容や協議会で議論を期待するポイント等についてご説明をお願いします。

(事務局)

まずは、このテーマを取り上げた背景等をご説明いたします。

【資料 2－1】の豊中市立図書館みらいプラン概要版をご覧ください。

このみらいプランは、図書館協議会での中央図書館の機能についての議論を受け、令和 3 年度（2021 年）に豊中市立図書館の今後の方向性を定めた「豊中市（仮称）中央図書館基本構想」を策定しました。この構想をもとに、将来ニーズを見据えた新たなサービスの提供と（仮称）中央図書館を中心とした新たな図書館ネットワークの構築を具体的にどのようにアクションしていくかということで、このみらいプランが誕生しました。

みらいプランでは、中央図書館は 5,000 m²程度、地域館は現状の庄内・千里図書館をそのまま活用。分館は 500 m²程度、そしてサービスポイントを設置するということを施設配置でうたっています。

当時、図書館の課題としては、「3 課題」にあるように各図書館の機能、配置を見直していくことと、中央図書館の機能として、どのような空間を作ってどのような機能を設置していくかが課題だと示しています。また、効率的効果的な図書館運営をどのようにおこなうかということも、みらいプランでうたっています。

また「6 新たなサービス展開」では、サービスポイントを作ったりだとか、蛍池図書館を見直し、リニューアルをさせてサービス展開をしたりすることを示しています。

さらに、【資料 2－2】みらいプラン抜粋では「5 新たなサービス展開」として、箇条書きで具体的に示されています。そのうち、⑦アウトリーチサービスの充実、⑧動く図書館ステーションの配置の見直しをご覧ください。

中央図書館基本構想やみらいプランを作成したあと、協議会では高齢者や障害者の来館困難者にどのようなサービスを

するかという観点で、高齢者に対しては平成 31 年から令和 3 年の 2 年間で、その翌年からの 2 年間は障害者に対して読書バリアフリーという観点からどのようにして読書活動を保証していくかということを議論していただきました。さらに令和 7 年度の 6 月までの 2 年間で多文化共生についてお話をしていただき、意見書をまとめました。

今回、アウトリーチサービスの 1 つであります動く図書館のサービスをもう一度検証してみようということで、今年度 1 年間全 3 回で議論させていただきたいと思います。次の 75 年後を見据えた、動く図書館の新たなサービスを議論して考えていきたいということで、今年のテーマに上げさせていただきました。

具体的に動く図書館とはどういうものだとイメージがそれぞれだと思います。実は先日動く図書館についてテレビ局の取材を受けまして、見た方もいらっしゃると思いますが、今からそのテレビの映像を上映させていただきます。

次に、動く図書館担当者から補足させていただきます。

当日配布資料の〈豊中の動く図書館〉をご覧ください。

テレビでも紹介がありましたとおり、豊中の動く図書館の歴史は古く、府内市町村では最古で、今年で 75 周年を迎えます。配布資料の〈豊中の動く図書館〉、動く図書館概要の 1 ページから 15 ページまでのあゆみ年表に詳しく記載がありますので、よろしければ後日ご覧ください。P2 の白黒の写真は 1951 年から走っていた 2 台目車両のシボレーです。初代の写真は残念ながら残っていないようです。

1950 年の開始当初からずっと変わらず続いていることは、豊中のすみずみまで本を届けようとする図書館職員の情熱、そしてそれを支えてくれているのは、雨の日も風の日も、巡回を待っている利用者さんが必ずいることです。目当ての本を見つけ、喜んで借りていかれる利用者さんの笑顔と励ましの暖かい言葉が、図書館職員の燃料となり 75 年走り続けてきました。

P3 のこちらが現在の車両です。1950 年の初代から数えて 17 代目となります。

この車両の魅力はなんといっても、3500 冊とたくさんの資料を積んで様々な場所へいける機動力です。3500 冊あれば、児童書から成人書、大活字本から外国語で書かれた本や大型絵本までさまざまな資料を一通りは積み込んでいけます。

利用者の方にある程度の選択肢の中から本を選んでいただけます。とはいえ同じ顔ぶれの本が毎回並んでいるとやっぱり飽きてしまいますので、3 カ月に 1 度は車に積んである資料を見直して、新しい資料へ入れ替えております。車いす昇降用のリフトもついており、車いすの方や、ベビーカーを押した親御さんにも、そのまま車の中まで入って本を選んでいただけます。この車両のウィークポイントは、豊中には狭い道や一方通行の道も多いので、このサイズの車両では走行が難しい場所もあることです。そして運転するには中型免許以上が必要なので、運転できる人間も限られてきます。

しかしながら、図書館の代替として、図書館から遠い場所へ資料を届ける移動図書館車としては、この大きさと冊数は必要だと感じています。

つぎに、動く図書館のサービスの主軸である一般ステーションへの巡回についてご紹介します。

一般ステーションは個人での利用が中心で、建物の図書館から遠い地域に住む方のため、17 か所を現在は巡回しています。停車場所は、マンションの駐車場や神社の境内、学校敷地内などです。P4 のピンクのままで示している場所です。

一般ステーションを利用されている方の多くは、ご高齢の方や乳幼児を連れのお父さんお母さん。遠くまで出歩くのがむずかしく、動く図書館のステーションがなくなれば図書館を利用できなくなる…そういった方が多くおられます。

数十年利用し続けておられる利用者さんもたくさんおられ、利用者さん同士で顔なじみとなり友達となり、そこで毎月井戸

端会議が始まる…本を介したコミュニティができているところも。利用される資料は人によって様々です。乗り物の写真絵本が好きな方、外国語絵本を必ず借りて行かれる方、特定の分野の資料だけいつも借りる方など、さまざまな方が動く図書館を利用されます。ステーションごとのそうした利用動向に合わせて、その日借りられそうな資料をなるべく多く積み込んでから、現地に向かいます。

積み込む資料の選択は、むずかしいですが動く図書館担当者の仕事の醍醐味でもあります。

各ステーションを4週間に1回の周期で巡回、一か所あたり20分から120分停車します。停車時間は、利用の多い少ないで調整されています。

近隣のこども園や保育園からも動く図書館の利用に來られていて、園児たちがお散歩がてら本を直接選びにきて借りることもあります。

一般ステーションでの行事としては、年に1回秋頃に、あおぞらおはなし会という名前で、絵本や紙芝居などのおはなし会を安全面等で実施可能な10数か所のステーションで実施しています。屋外でのおはなし会は室内とは違った開放感があり、こどもだけでなく大人の方も通りすがりにふっと聞いて行かれたりします。

つぎに施設への巡回についてご紹介します。

現在の巡回先は2か所、図書館の利用に障害がある子どもたちの通う施設へそれぞれ4週間に1回の周期で巡回しています。P9のこちらは児童発達支援センターでの様子です。肢体不自由や知的障害の就学前の子どもたちが通う市立の施設です。車の外にも本を用意します。簡単な点字の本やしかけ絵本、布の絵本、大型絵本も入れています。肢体不自由児の場合、視力も弱いこともあるので読めなくても点字の感触を手で触って楽しんだりできる、そんな本もあります。

車で本を選ぶ場合、親子と先生と一緒に選びますが、その時には車内にじゅうたんを敷いて、靴を脱いで上がってもらいます。自分で歩ける子も歩けない子も一緒に車に入って寝そべったり、近くで本を選んでもらえるようにしたりしています。先生からはこの絵本を借りたいという事前のリクエストも多く、積極的に絵本が取り入れられていると感じます。

P7のこちらは、大阪府立豊中支援学校での様子です。小学部から高等部まで、知的障害のある子どもたちが通学し、たくさん利用してくれます。巡回は学校の昼休みを利用して、毎月一回12時半から13時5分までの35分。待ちきれなくて職員の周りをうろうろする子もいます。子どもたちは自分で本や雑誌、CDなどを選び、自分で貸出の手続きをしにカウンターへやってきます。先生も一緒に選ばれたりして、なかなかにぎやかで楽しい雰囲気です。

子ども向けの雑誌や乗り物の本、昆虫や動物の本も好きですが、車に積んだ本だけでは足りず、別に箱を用意して車の外にも置いています。子どもたちに選ばれる本は、児童書ばかりではありません。料理の本やガイドブック、表紙が気に入って借りる小説もあります。中学部から高等部の生徒にはアニメ音楽やJ-POPなどのCDも人気です。

これら2つの施設でも、おはなし会を年1回実施しています。平成3年から始め、普段絵本やおはなしに接する機会の少ない子どもたちにおはなしの楽しさを届けようという目的で始まり、現在も形を変えつつ継続しています。学校や園との信頼関係もあるので、長年子どもたちにおはなしを届けてきたおはなしグループに継続して依頼しています。そのため、毎年来るおはなしのおばちゃんとして親しみを持って迎えられています。

このように動く図書館では機動力等の特性を活かしたサービスを行い、図書館から遠い地域への巡回とともに、障害者サービスの一翼を担っています。

さて、ここまで、現在の動く図書館について紹介させていただきましたが、この先も、動く図書館が豊中のすみずみまで図書館を届け、市民にますます愛される存在となるには、何が必要なのでしょう？ 担当者として課題を3点考えてみました。

1. 利用者ニーズの把握

まずは、現在の動く図書館の活動で利用者ニーズを満たすことができているのか、来館者アンケートで確認させていただきたいと思っています。ふだんの巡回で、利用者さんと会話をする機会は多くありますが、あまり語らない方もいらっしゃいますし、動く図書館のアンケートは 2008 年に実施して以来今まで実施されていないため、この機会に動く図書館でも来館者アンケートをとり、利用実態や満足度、求めるサービスを把握したいと考えています。

2. 新たな図書館ネットワーク下でのステーション配置の見直し

みらいプランでも書かれているように、今後建物の図書館の数や大きさ、配置が変わることに伴い、動く図書館のステーション配置も全域サービスをめざして見直しが必要と考えています。動く図書館には「動く図書館サービス規程」という貸出冊数等のサービス内容やステーションの新設／移転／廃止などに関する規程が存在しますが、今後ステーション配置を見直すにあたってはこの規程についても見直していく必要があるのではないかと考えています。

3. 新たなサービス展開

建物の図書館へ来館することがむずかしい市民にも、情報や文化への平等なアクセスを保障するのが移動図書館の使命だとすれば、本や資料を届けるだけでなく、図書館としてまだまだすべきことがあるのではないかと、という視点です。

巡回先についても、現在の巡回先に加えて、行くべき施設はないのか。図書館利用に障害のある方へのアウトリーチサービスという観点で、まだいけていない新たな巡回施設の模索も必要かもしれません。新たなサービス展開については、皆様のご意見や来館者アンケートをもとに今後調査をすすめ、検討していきたいと考えていますので今回は省略させていただきます。

今の動く図書館の人員体制では正直なところ現状のサービスを続けることで精一杯なんです、図書館自体が大きく変わろうとしているこの機会に動く図書館についても一度リミッターを外して、いろいろ考えていかなければと思っています。

車のリース契約更新も近づいてきており、予算獲得に向けた動きもまもなく始まります。

中央館整備後の新たな図書館ネットワークにおいても、動く図書館が必要な存在であると示していく必要があります。協議会でも動く図書館に関するご意見をぜひいただきたく、本日はよろしくお願いいたします。

(委員長)

ただいまの事務局の説明に対し、委員から質問等をいただきたいと思います。

(委員)

今の人員ではとおっしゃっていましたが、今の人員は実際何名ぐらいいますか？

(事務局)

動く図書館の図書館職員の担当者はフルタイム職員 2 名となっています。業務の運行委託ということで、民間事業者にドライバーとして来ていただいています。

(委員)

私のこどもが保育園に通っていた時代では、保育園にも来ていただいていた。保育園にも本はたくさんありますが、動く図書館が来るのを非常に楽しみにしていたのを記憶しています。今、学校では一人一台タブレットが導入されていて、それぞれの教科を学習する中で、調べ学習などでもこれまで学校図書館に行き調べていたものが、タブレットを使って調べていくということで、本に接する機会がどんどん減っているように思います。私としては、新たなサービスの展開とかこれから解決していくべき課題といったものはたくさんあるかと思いますが、動く図書館は続けていただき、子どもたちがタブレットだけではなく、調べた

いことを知る方法として、図書というものを選択できるように、ぜひとも動く図書館を継続していただきたいと思います。

（委員）

先ほどの説明を聞かせていただいて、利用者の動向は、例えば夏場はすごく暑いので利用者が減るとか、月ごとに変化があると思いますが、2008 年からアンケートを取っていないというのは何か理由があつたことなのでしょう？ 利用者の声が届いていない理由について、なにかあるのかお聞かせいただければと思います。

（事務局）

2008 年にステーションごとにアンケートを実施しましたが、それ以降は、動く図書館限定にしたものではなく、図書館全体の来館者アンケートを何度か実施しています。2004 年に動く図書館が 2 台から 1 台になり、業務自体を縮小し人数も減少したこともあり、ご意見を聞く機会を設けることができませんでしたが、今回みらいプランに動く図書館についても掲載し、次の車両の仕様も考えていかなくてはいけないということで、協議会でも動く図書館のことをしっかり議論していただくこととしました。その中で、やはり改めて利用者の声も聞く必要があるのではと考えています。

（委員）

以前、ある事業者のスーパーマーケットで移動スーパーをしているとの話をお聞きました。何が一番いいかという、お店をやっているとカスハラがあるが、移動するとそこにはなく「よく来てくれた」と感謝の言葉をもらう。先ほどの映像の通りだと思いますが、喜んでもらうことによって、スーパーマーケットに対するロイヤリティがあがる。従業員もやりがい生まれるということで、人が足りないこの時期にその人手はそんなに困っていないとのことだ。これは評価すべき点で、というか大切にしないといけない点ではないのかなと思いました。

もう一つは今後の図書館の配置が変わるという話で、アンケートの案があつたかと思いますが、どこの図書館を使っているかなど、クロスした設問をぜひ加えていただきたいと思います。そこにヒントがあるかもしれない。アンケートは専門ではないのですが、ぜひ専門の方に設計いただきたいです。

最後に持続性を考えると、食品も必需品ですけど、本も必要な方にとっては必需品ですよね、嗜好品ではないはずだ。そういう視点で考えていったときに、先ほどのお話みたいにタブレットがあつたりして一般的に本離れといわれているので、持続性をたかめるには新たな層を開拓しないといけないと思います。動く図書館の現状は移動困難者のこどもと高齢者しか使っていないのでは。こどもも減っていく話になるとますます先細りにしかならないと思いますので、持続性を高めるには今使っていない人の意見をしっかり聞くことがすごく大切だと思います。

（委員）

職員二人でこれだけのことをしているということで、本当に感謝しています。しかし今後のことを考えますと、議題にも課題にもありました新たな図書館ネットワークを進めていこうとする中で、服部図書館のことや岡町図書館の存続がはっきりしなくて、身近な図書館が減っていくと考える人が多いのではないかと考えています。今まで豊中は歩いて行ける身近な図書館の整備を進めてきたおかげで、本当に図書館を身近に感じていました。

けれども、これから新たな図書館ネットワークの中で地域館、分館がどのような形になっていくのか、先日高川図書館の複合施設化の計画をお聞きましたが、図書館の機能を縮小されるところが多いのかと思いました。人々の交流の場がたくさん必要とのことだが、今高川図書館を見たら十分な広さがあり人々が交流する場があるのに、なぜ、そのような新たな場所を作ろうとするのが理解できませんでした。本のある場というところで人々が交流することが大切だと思います。それは動く図書

館でもそうだと思っています。動く図書館も図書館ネットワークの中に入っていて、人々が求めるものを届け、図書館側からも様々な情報を提供する場である。これからの図書館を考えていくうえでは、まず図書館ネットワークというものをここで話していただいて、そのうえで動く図書館の話もあるかと思います。それは昨年度の話の中でも出ていたのに、それを全く無視されていて、なぜすぐに動く図書館の話になるのかということを疑問に思っています。

（委員）

今回初めて動く図書館について議論されるわけですが、他市の図書館を見ても動く図書館をテーマにした議題はほとんどなく、今回の議論は非常に重要だと思います。先ほど、動く図書館のサービスについて、大きく分けて2つの説明（①一般ステーションでの個人利用、②施設への巡回）がありました。

今後、3つ目として新たなサービス展開を実施するのかどうか、これから様々な利用者層を獲得していく中で非常に重要な視点だと思います。

この3点を整理して考えていくとするならば、まず一般ステーションの個人利用については、図書館みらいプランで候補地が決まっていかなければ、ステーションをどこに置くのかという議論が非常に難しいと思います。

二つ目の施設への巡回では、府立の豊中支援学校と市立の発達支援センターを巡回されているとのことでしたが、豊中市内には障害者が通う通所施設はたくさんあると思います。80施設以上はあります。高齢者施設もたくさんありますので、府営・市営の施設の巡回だけで良いのかという議論と本当に必要なところにアウトリーチサービスをするという視点では、今あげられている来館者アンケートは既存の利用者を対象にしているため、施設側のニーズ把握のために全域的にアンケート調査を行う必要があるのではないかと思います。またアンケートを行う際に、図書館では他にもこういった障害者サービスを実施しているよというリーフレットを同封できれば、障害者サービスの認知度を高める機会にもなると思います。

今年、動く図書館が75周年ということで冠事業的なものは考えられているのでしょうか。先ほどの映像では、大阪府43市町村の中に23台の移動図書館があるということでしたので、どっかに一か所に集中して、例えば名古屋が2023年度に実施したBMサミットのように他の自治体と連携をさせてもいいのでは。動く図書館の魅力の発信を通して、そこで新しい利用者の獲得とか図書館のサービス内容の発信など、図書館が縮小傾向にある中で、図書館が必要だと思う利用者層だけでなく図書館に無関心な方にも図書館サービスをもっと広めていくことができるのではないかと思います。

そういう中で、今後の動く図書館サービスにはすごく期待を寄せています。

（委員）

まずは基本的な整理をしたいと思ってまして、一日の利用者数がどれぐらい、貸出冊数、年齢帯はどうなっているのか、基本的な情報が議論のためには必要ですし、全体の図書館の計画や事業のなかで、どの程度のウエイトで動く図書館に引き継いでいるのかということを整理していただいたほうが議論しやすいかと思います。

予算がなくなるからなくすということではないという気持ちもあるところで、とりわけ利用者が多い少ないとか、コストパフォーマンスが合う、合わないとか、動く図書館の事業がそこだけに関係づけられて議論されてしまうのも違うように思いますし、だからこそ客観的な情報や図書館全体のことも視野に入れ、これまでどういう風にやってきて、それらがどう変わっていくのか、変わっていくべきかということを協議会で共有するのも大事なことだと思いました。

これまで協議会では、読書バリアフリーとか多文化共生を議論してきたわけですし、中央図書館についても議論をしてきたと思っています。今回の動く図書館についても、独立したものを議論するわけではなく、図書館ネットワークという横のつながりの中にあるものなので、これまでの協議会での様々なテーマの議論も含めた図書館全体と関係がどうなっているのかにも配慮しながら、横につなげて見ていくことが大切だと思います。動く図書館は図書館から遠い地域のフォローアップのために今ま

でやってきましたというだけだと議論も深まらないので、これまで協議会で議論してきたテーマ等との関係にも配慮しながら、議論をしていく必要がある。

次に図書館をめぐる環境変化がすごく大きいことです。

昔は電車でも文庫本を読んでいる人が多いましたが、現在ではみなさんスマートフォンを見ているなど環境が大きく変わっていると思います。こうした環境の変化の中での動く図書館の役割というか、やっぱり時代に合わせて変わるべきところや工夫できるところがあるのではないかと考えています。それは広報的な部分であるのか役割的な部分であるのか、ぜひスタッフのご意見もお聞きしたいと思います。アンケートでの満足度調査も重要ですけど、今回のように新しい展望を目指す時には、動く図書館を利用している方に聞くのも大事ですが、利用していない方にも聞いていただきたい。とはいえ限られた資源で無限に大きくしても仕方ないことですが、潜在的なニーズも含めてもう少し広げて議論したいときには、利用していない方や現場の最前線にいる図書館スタッフの方々がどのように考えているか聞けたらいいのではないかと考えています。

最後に、図書館の蔵書や情報取得の役割はこれからも重要であり続けるが、一方でやはりスマートフォンの時代になってきたときに、物質としての本をどれだけ残すのかというコストパフォーマンスの問題なども考えると大変難しく状況になってくると考えています。ですが、もう少し議論が必要だと思っていることは、司書がいること、本を紹介できる人がいるということの価値は普遍的であり、今こそ確認されるべきだと思います。動く図書館で本を持っていくことも大事ですが、本の専門家も移動することの価値はとても大きいと思います。そういうところも議論できればと思います。

(委員長)

情報環境の変化として、動く図書館開始時の 75 年前はもとより、インターネットの普及以前というのは、書店もあったとはいえ、多くの資料に触れることができたのは図書館ぐらいでした。その中で動く図書館は、図書館の持っている本にアクセスできるポイントとして非常に重要だったということはその通りだと思います。

一方で社会の側が変わって、社会の側に流通している情報自体は溢れている状況であります。だからこそ動く図書館に役目があるのではないかとというところは、これからの動く図書館の理念や役割を考えるうえで非常に重要ではないのかと思います。インターネットで情報を集めるとき、動く図書館の 3500 冊の蔵書が目の前にある時に情報にアクセスする経路は大きく違うのではないかと思いますし、そこでの 3500 冊として、その場に合った形で図書のプロがアレンジしたものを常に持っていけることの価値も大きく違ってきます。そういう形でより解像度を上げて、いわゆる移動図書館の価値というのも再考できるのではないかと考えています。どの施設にも一通りの蔵書を持っていける必要はどこにもなくて、病院や多文化に関わるような取り組みの場に、その場所に合った図書をアレンジして持っていく動く図書館ならではの蔵書構成の柔軟性という利点を活かして、新たな役割を模索していく視点でこれからも検討を続けていければと考えています。

(事務局)

資料 3 の「令和 6 年度版 動く図書館概要」の P20 を見ていただきますと、年間の利用統計として登録者数、年間貸出人数、予約提供数等を毎年載せていますが、今後議論していただくための数字等の分析を行っていきます。前回の多文化共生のためのサービスの議論の時にもありましたが、職員にアンケートを行うと、「不安に思うこと」などの項目で、かなりの意見が出てきました。それをすぐに研修につなげ、活きたアンケートが出来たと思っています。

歴代の動く図書館担当者も様々な思いはあったと思います。かかわった職員もたくさん残っていますので、そういう職員にも意見を聞きながら、自分が担当するならこんなことがしたいなどのイメージを共有出来たらと思います。今、豊中駅にサービスポイントを置いています。警備員だけがおり本の貸し借りだけを行う場所ですが、動く図書館での司書が選んだ本を司書が自ら届けることの価値をしっかり考えていきたいと思っています。

(委員長)

それでは、次第 2「豊中市立図書館 来館者アンケートについて」に移ります。次第 1 と同様、事務局からこのテーマを取り上げた背景や理由、現在の取り組み内容や協議会で議論を期待するポイント等についてご説明をお願いします。

(事務局)

資料 6 - 1「来館者アンケートの実施について」をご覧ください。豊中市の図書館では平成 20 年度から豊中市立図書館評価システムを導入しました。5 年ごとに図書館運営に関する自己点検、外部評価等を行ってきました、実際のアンケートは参考資料にあります。平成 20 年、平成 24 年、平成 29 年、令和 4 年度とほぼ 5 年ごとに、ほぼ同じアンケートを継続的にしてきました。ただ、前回の令和 4 年度の実施の際に、もう少し利用者の声をしっかり聴き、5 年ごとよりもっと短いスパンで継続的に把握する必要があるのではないかとのご意見を評価委員会からいただきました。

さらに、参考資料 3「令和 4 年度豊中市立図書館評価表」にあるように、評価では図書館運営に関する毎年の数値を把握しています。ただ、26 ページ 1 - 2 - 7 にありますように、利用者満足度調査によって把握している「図書館のサービス満足度」という数値が現状、5 年に 1 回しか出てこないため、毎年は無理でも、把握する頻度を増やす必要があるとの指摘でした。

このため、今年度は評価の中間年に当たることから新たにアンケートを行うものです。アンケートでは質問項目が多すぎるという回答者の声もいただいておりますことから、質問項目数を減らし、満足度調査を中心にアンケートを設計したいと考えています。

実際の質問内容については、参考資料 1「豊中市立図書館の利用について」というこれまでのアンケート調査票の 4 ページ、B-5 が、これまで 20 年近く図書館の満足度を図る指標になります。この項目を中心に、今回のアンケート（資料 6 - 2「豊中市立図書館 来館者アンケート」）を考えています。新しいサービス（電子書籍等）については、今回から新たに満足度の選択肢は追加することと考えております。

満足度以外の質問項目については、まずは利用者にとって図書館がどういった存在であるかを聞く質問を問 2 として用意しました。これは、指定管理者として図書館運営に参画している民間事業者も自分たちが運営に携わることにより利用者にとっての図書館の存在がどのように変わるのか、変えうるのかを自問自答しているなかで、今後も図書館運営の主体であり続ける自治体としても、利用者の目線に立った時の図書館の存在意義や効果を把握することにより、公共が担う今後の図書館運営の参考にしたいとの思いからです。

次の問 3 は、問 2 とも関連するのですが、図書館に来た目的、目標が達成できたかを聞いています。問 4 は自由記入欄です。

(委員長)

それでは、先ほどの事務局の説明に対してご質問等があれば、お願いします。

(委員)

前の次第 1 でも議論がありましたが、やはり図書館を利用されていない方にアンケートを取っていただきたいと思います。私は 4 か月検診のお手伝いをしているのですが、結婚されてから初めて豊中市に来られた方は、どこに図書館があるのかもわからず、近所になければ遠くて行けないという方がすごく多いです。その場合などは、動く図書館のステーションをお勧めしていますが、それでもベビーカーを押していくには少し遠い場所もあると思いますので、そういう方にどうすれば図書館に行ってもらえ

るかという意味でも、図書館を利用していない方にアンケートをとっていただけたら、様々なことが見えてくるのではないかと思います。

（委員）

私も、図書館を利用されていない方のアンケート調査結果というのが非常に気になります。ぜひ、小中学生の利用者の意見も学校関係者としては気になります。それは学校図書館にも活かせるかなと感じています。

（委員）

アンケート案の問2の部分は少し言葉が難しいように感じる。10代の子たちって、学校に図書館があるので、地域の図書館を利用しているのかなと思います。小中学校の図書館を利用していますか？といった問いや、学校の図書館と地域の図書館をどのように使い分けているかなどを聞いてみてもいいのではと思いました。

あとは、小さなお子様がいる家庭では、図書館に行きやすいということが重要で、図書館にはどういったときに行くかなども聞きたい。例えばイベントがあるからとか、お母さん同士が集まるような場があって人とつながれるとか、そういう問いもあればいいと思いました。もう少しわかりやすい問いがあってもいいのかと思いました。

（委員）

アンケートの設問を見させていただいて、図書館の意義を問うような設問が入っていますが、これらはよく利用されている方の回答では、すぐ満足度が高い結果として現れてくるのではないかと思います。利用されていない方へのアンケートについては、実際にやろうとすると、とても難しいのではないかと考えています。誰でも、自分が関心のないアンケートには答えないと思います。となると、専門の知見があるのでないかと考えていて、専門家がするワークショップとか、実は多数に聞く必要はないのではないかとともに思います。特定のターゲットを決めてしっかり深く聞くことが必要と思います。深く聞いた部分をどう展開するかは、市で考えればいいのかと思います。アンケートをしても答えがないので何もアイデアが生まれないことにならないようお願いしたいと思います。

このアンケートの設問について協議会で2年間やっても、今のようにアンケートの専門家がおらず、素人だけでは生産性が上がらない。この場にアンケートの専門家がいて対話が生まれるなら意味があると思います。年度内はアンケートの設問の話をすること、早く専門家の意見などもお聞きいただいて、クロス集計などもお願いしたいと思います。

（委員）

府立高校の学校図書館の現場では司書がいなくなったとのことで、私が参加したあるワークショップの中で市内の高校の先生が公立図書館に助けを求められていました。居場所ということで豊中市は自学自習室を作りましたが、本来は自学自習室ではなく、本がある場で子供たちが交流できる場というのが図書館ではないかと思います。中高生の意見というのは、来館者アンケートでは全然見えてこないの、何らかの形で子どもたちが意見を述べられよう、アンケートを工夫していただきたい。

ある小学生の高学年ぐらいの女の子が、幼児用のマットのところで絵本を介して、友だちと楽しそうにお話している景色を見た。本があることで子どもたちの関係も深まり、これが本来の図書館の姿だと改めて思いました。図書館が、今来館していない人たちの役に立つような存在になってほしいなと思います。そんなヒントをもらえるアンケートをぜひ専門家にも考えていただきたいと思います。

(委員)

このアンケートを実施して、本当に欲しい回答が拾えるのかと気になりました。各委員が言っているように、対面型のワークショップなどで、市民が抱えているニーズや様々な課題を確認していくというのは非常に良いことだと思います。また、このアンケートはすでに利用されている方を中心に作られているようなイメージがある。

今、図書館は夏の暑い季節に涼む場所として利用したり、最近はサードプレイスとして利用するような使われ方があったり、学校図書館であれば第二の保健室としてであったり、実際には様々な利用のされ方があるのに、アンケートだと一問一答になってしまう。そうした意味で、ワークショップ型で意見を拾えるというのは非常に良い案だと思います。

また問3の質問では、アクセス保障について記載されていますが、本来、アクセスの保障は経済的、地理的、言語的、身体的等の制約に関わらず、情報への平等なアクセスが確保されているかどうか、が問われる質問項目になると思います。現在の質問は、単に個々の満足度やニーズが満たせたかどうかに留まっているため、ここは表現を変えていただきたい。

また、今豊中市といえば中央図書館構想が話題になっていますので、そのテーマに関連した質問項目がないことも若干気にはなります。

(委員)

従来からの図書館評価のための来館者アンケートであって、経年比較をより細かくするために、今回からこれまでのアンケート実施期間の中間年に行うというのであれば、質問項目や選択肢を変えてしまっているので、それでは経年でもなんでもなくて、まったく意味のない作業になってしまう。

また、問2に関してですが、「図書館はどんな存在ですか」と聞いて、「集中没頭できる場所」の回答が5割集まったとして、それをどうするつもりなのか。意味がなく、意味のないことをするのはもったいないと思っています。来館者アンケートの実施時期の間隔を短くすることなら、その部分は意味があります。各問を同じ質問で答えていただいて、聞いてやっていただきたいと思います。

もし、工夫するのであれば、何をやるかを明確に決めてアンケートを実施しなければ意味がない。来館者アンケートをやめたほうがいいと言っているのではなく、工夫のしどころだと思いますので、もう少し考えていただいたほうがいいと思っています。例えば、考えたいと思うところとして、【参考資料2】令和4年度（2022年度）豊中市図書館来館者アンケート調査報告書の3ページ、来館者の属性を見ていただくと、来館者は40代以上が8割近いのが現状です。来館者アンケートをするのであれば、こういったかなりの偏りをきちんと踏まえていなければならない。また、9ページの満足度でいえば、本来、満足度アンケートというのは、（5点満点でいえば）満点ではないことを確認します。

つまり何が言いたいかというと、日本人がアンケートを答えるときに付けやすいのが4か3なんですね。2は少し辛口で、1をつけるのはよっぽど的人がつけるのが相場で、テーマパークのアンケート等でもそうなりますが、5が当たり前の中で4や3がどれくらい付いているのかというのが指標です。しかも、これを何の目的とするかといえば、満足なんてそんな簡単に人はしないので、どこを我々は変えたいのかということのコミュニケーションとしてアンケートをやるものだと思います。満足度の現状はこうでした、では意味がない。9ページの満足度でいうと、これはそれほど高いとは思えません。

今回、アンケートを実施するのであれば、前回の満足度は高くないとの課題意識をもとに、「我々は具体的にこのような点を改善しました。今回の満足度はどうでしょうか？」というようなストーリーを作っていただきたいと思います。

前回の調査から何も変えていません、また満足度調査をしました、結果はこうでした、だけでは、何度続けても意味がない。

(委員長)

大学でも学生には、まずアンケートを実施してみてから考えるのは止めるよう指導しています。まず文献などをよく読んで論証したいポイントとか仮説をよく検討したうえで、アンケートを作らないと意味がない。経年経過を見るということであれば全く同じ内容ですべき。

問2で事務局が例に出された指定管理者の場合でも、どこが変化をしていて、それをどうしていきたいのかをあらかじめ考えてアンケート設問を作っていると思います。例えば、指定管理者によって開館時間が延びたので、図書館に対する満足度が上がったといった結果を期待して設問を用意することもあるかもしれません。逆に言うと、指定管理者の場合は、弱い部分が明らかになる設問は入れにくいかもしれません。そうした観点から見たときに、問2は何を求めて設問しているのかを明確にする必要があると思います。

具体的には、問2の1から12の選択肢は、一つの性格として、利用者の主観を聞いていると思います。つまり逆に言うこと事実ベースではない。例えば、子どもたちが楽しそうにふざけあっている姿は、問2の選択肢でいうと「5 人と交流できる・一緒にいられる」に客観的にはあてはまるのですが、当の子どもたちが図書館はそういう場がよいと思っているかとはまた別だと思います。事実ベースでこういうことを聞けば、図書館としてそうした姿にはこのように対応していくといった対応方針が明確になったりするのでは。こうした形がすべてだと思っているわけではないですが、人の何を聞いているのか、解像度を高くしていただくと、よりよいアンケートになるのかなと思います。

(事務局)

やはり経年変化をとるとというのが今回のアンケートの趣旨ですので、その部分は明確にしていきたいと思います。あまり来館しないような方々へのアンケートについても、他市事例などを参考に、デジタル等うまく活用しながら考えていきたいです。

問2は、市民の皆さんにとって図書館がどのような存在であるのかを知りたいとの思いで考えた問ですが、ご指摘内容をきちんと踏まえ、整理させていただきます。問1についても、経年変化がしっかり把握できるようにしてまいります。

(委員長)

それでは、次第3「その他」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

・蛸池図書館についての報告

蛸池図書館は、「だれもが居心地のよい図書館」をコンセプトに、4月1日にリニューアルオープンしました。自学自習可能な読書スペース「モノ」、飲食可能な読書スペース「ソラ」、靴をぬいでくつろげる絵本スペース「はらっぱ」の3つのスペースを設置しました。また、市内の図書館で初めて「閲覧専用図書コーナー」を設置し、館内で閲覧できる本を約1000冊そろえています。おやこトイレや、授乳室も新しく設置しました。

リニューアル後に新たに始めたイベントとして、読書スペース「ソラ」では、毎月、読書に親しむイベント「ほっとブックミーツ」を行っております。少人数で、当日参加で気軽に参加できるイベントです。また、市民団体の「蛸池図書館を考える会」と共催で、地域で活動する人を招いてお話を聞くトークイベントを3回行いました。延べ75名の参加がありました。7月には、蛸池納涼祭実行委員との共催で夏まつりイベントを行い、館内が多くの親子でにぎわいました。8月は、司書の仕事を体験する「こども司書」、電子書籍を聞きながら軽食を食べる「ランチタイムソラ」などのイベントを行います。去年より引き続き、公民館、社会教育課との連携事業で読み聞かせの連続講座「えほんサロン」や、小中学生対象のお料理の講座「料理クエスト」も行っています。

リニューアル前に比べると、親子や、中高生など若い世代の来館者が増えています。土日は、絵本スペースはらっぱや、トンネル席で親子が絵本の読み聞かせをしたり、友達同士で並んで座ったり、寝転んだりして本を読んでいる姿が多く見られます。

来館者の反応として、ポジティブな声としては、「子どもを連れて行く場所ができてたすかる」「明るく開放的になって嬉しい」「子どもが勉強できる場所があるのはありがたい」「閲覧用の図書があるのが良い」などの声をいただきました。改善を望む声としては、「新聞の棚が遠いのが不便。新聞を読むスペースを作って欲しい」という声があり、新聞棚を公民館集会室前から図書館近くに移動し、机を設置しました。また、「話し声が気になる。子どもがうるさいのを注意して欲しい」などの声もあり、職員がフロアワークをしながら来館者の様子に気を配り、マナーを守っていただけるようにつとめています。

館内に資料のテーマ展示を約 10 箇所で行っており、ルシオーレ内の店舗との連携展示も行っております。本との出会いがあるような展示やイベントを今後も行っていきたいと考えています。蛭池図書館についての報告は以上です。

・80 周年記念の取り組み

人気作家である増山実さんの講演会「増山実の世界」を 10 月に予定しています。

また、豊中市立図書館の 80 周年記念として、鞆を作りました。岡町地域の方から図書館を使うお子様へのプレゼントとして寄付していただきました。豊中市の子どもたちが図書館にたくさん行って、多くの本を借りて、いっぱい本を読んでほしいという願いが込められています。鞆のイラストは豊中市在住の絵本作家きどまやさんによるデザインです。図書館に利用登録している小学生以下の子どもを対象に無料でプレゼントしています。3 日間で 500 枚を配り、残りが 2000 枚です。これからも、多くの方に来ていただいております。岡町周辺のお子さんにとの寄贈者の意思で、配付は岡町図書館に限っております。

(委員)

分館に係る地域での説明会などにも参加して、分館の在り方が変わろうとしている変化をものすごく感じました。この場での説明はないのでしょうか？

(事務局)

協議会でも説明してまいります。

(委員)

詳しい説明は後でもよいが、どういった説明会をしているかなど、流れというものをここで報告していただきたいです。

(事務局)

2 回目以降の協議会で、適宜、説明してまいります。

(委員)

地域館、分館のネットワークがあってこそその中央図書館だと思いますので、なぜこうした話がこの図書館協議会で出ないのか疑問に思いました。

(事務局)

2回目以降の協議会で、適宜、報告させていただきたいと思います。

(委員)

2回目の協議会は大いぶ先になるので、いま報告してほしいと思いました。

(委員長)

これで令和7年度第1回図書館協議会を修了します。